世紀の大発見 in 北海道！

―金次郎の絵の謎

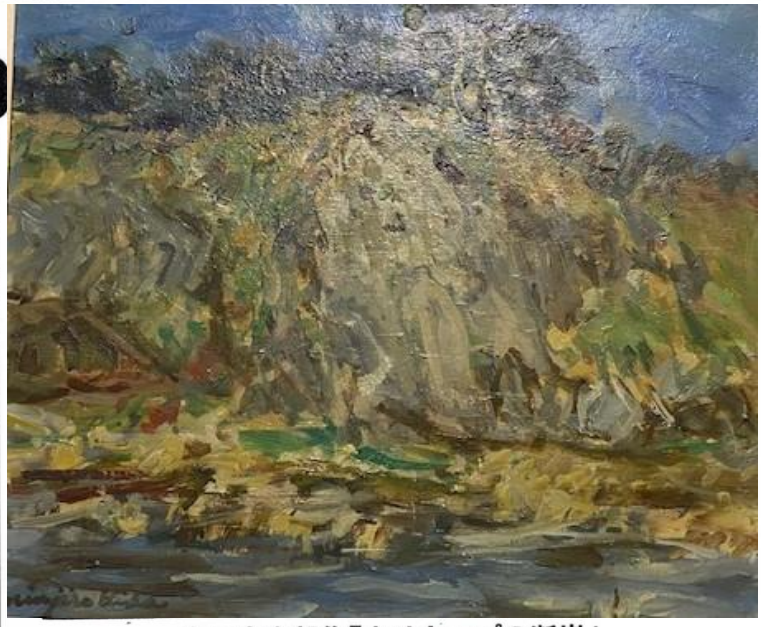
佐川 昭

それはある患者さんとの話から始まった。

彼女は長年通ってくれている人だ。ある時に誕生カードを渡し、個人情報で秘密だろうけれどと断って、誕生の地を聞かせてもらった。すると岩内という。私の記憶の中のその土地は、大火があり、15号台風での洞爺丸沈没事故を盛り込んだ三國連太郎主演の映画「飢餓海峡」の舞台になったところだった。彼女いわく、画家の木田金次郎も有名で今は専用の美術館があるとのこと。

そういえば当家に、親の代から引っ越しのたびに持ち運んでいた絵があった。今でも大きな包みに包まれて我が家の押し入れに保管してあり、我々兄妹の記憶では木田金次郎の絵として伝わっている。そんな絵があるので一度その美術館長に見てもらいたいとお願いした。

家で久しぶりにその包みを開けてみた。懐かしい母の字で木田金次郎と書いてあるではないか！ その時私はこれだ！やった！ と思った。中にはあったのは、ベニヤ板に描かれたクリアなリンゴの絵だった。額縁も立派。しかしサインがどこにもない。裏も横もすべて見たがなかった。とにかく丁寧に写真を撮り彼女に送って、帰省の際に館長に見てもらうようお願いした。



木田金次郎作「ホリカップの断崖」
（1952年、当家所蔵作品）

しばらくして返事が戻ってきた。結果は判定不能！ 前向きの回答ではなく、まずサインがない、ベニヤ板もダメできれいなリンゴの絵も画風が違うとのこと。がっかりだ！ あれほど親の代から大事に持ち運んできたのに。でも一番の専門家が言うのだから仕方がない。ただでさえコロナ禍で気が落ち込んでいるのに、大きく期待していたことがさらに輪をかけて、大きなショックを受けてしまった。

この件を昔からの事情を知っている妹に話した。すると自分の所にもう1つ絵があるとのこと。それは何だろうと思いながら後日持参してもらい開けてみると、海岸の崖が描かれたもので、左下に何とKinjiro Kidaとはっきりしたサインがあるではないか！ これだ！ 我々が持ち運び保管してきた遺産は！ と思った。これは誰が見ても間違いないはずだ。そして絵全体とサインの場所のアップを写真に撮って、再びあの彼女に送り、今度は間違いないとばかり、鑑定を託した。

しばらくして、まだ岩内に行っていないが自宅にある立派な画集を3冊ほど持ってきてくれた。彼女はもう分かったらしく私が依頼した海岸崖の絵とそっくりの絵が載っているページにマークをしてくれていた。そこには1952年ホリカップの断崖とあった。最初は同じものかと思ったが、よく見ると海からの崖を見る角度が少し違う。金次郎は同じ景色をほんの少し違った角度から描いたのだ。これは大発見だ！

よく西洋の巨匠が同じ対象で少し違った絵を描いているのを知っている。ゴッホの自分の部屋やひまわりの絵などがそうだ。金次郎のはほとんど同じで、よく見ないと違いが分からない。

彼は他にこのようなことをした形跡はない（少なくとも私の知る限りは）。だから大発見なのだ。これをNHKあたりが取り上げてくれないだろうか？ などと想像を逞しくしている。

まだ謎は残っている。最初のリンゴの絵はいったい誰の作だろうか？ 私は金次郎のものと信じている。ベニヤ板を使っているということは、若く貧しいときに描いたのではないか。まだ絵にサインするほどの存在でなかったのかも知れない。

さらにもう1つ。なぜ我が家に金次郎の絵があるのだろう？ 父母が存命の時には1度もその由来について聞いたことはなかった。今カタログの年表で見ると、1954年に丸井今井札幌で展示会があったとある。絵は1952年作なのでその時に出品されていた可能性はある。父が誰かを通じて購入したことも考えられる。でもどうしてかは分からない。金次郎との特別な繋がりがあったかも不明である。金次郎は有島武郎の「生まれ出づる悩み」のモデルという。この辺の深掘りもこれからしてみたい。

私にも金次郎作品について「生まれ出づる悩み」が出てきて、しばらくは収まりそうもない。ここにある絵は、我が家（兄妹）が所有している金次郎の作品だ。これと瓜二つの作品が美術館にあるはずだ。2つの絵を1か所に並べて見ることができたらどんなに素晴らしく楽しいだろう！ 金次郎も双子の絵の出合いに苦笑いをするだろう。いつか謎が解けて2つの絵を同時に見られる日が来ることを願ってやまない。

コロナ禍の中で少しでも北海道発の明るい話題になれば幸いです。これからが面白いところです。

（佐川昭リウマチクリニック理事長）